

所 属 鳥取県漁業協同組合（賀露支所）
氏 名 あみた けん
網田 健（42歳）
船 名 だいさんせいようまる
第三生洋丸 95トン
漁業種類 沖合底びき網漁業



～クルマ好きが高じて、沖底船の機関長へ～

落ち着いた雰囲気の網田さんは、漁師の祖父、父、従兄弟をもち沖合底びき船「第三生洋丸」の機関長を務める漁師である。「継ごうと思って船に乗ったわけじゃない」と語るように、昔はガソリンスタンドの店員をする若いクルマ好きの青年だった。

中学校卒業後から続けてきたガソリンスタンドの店員を辞め、激務の沖合底びき網漁船に乗り込んだ理由は「いいクルマに乗りたかったから」。魚がいるとなれば昼夜関係なく、1日、2日と操業し続けるため、「えらいのと、眠いのがつらいかな…」と言う。9ヶ月間の漁期中に1年分を稼ぎ出すこの漁業は、きついが稼ぎはやっぱりいい。

こうして船員生活を続けてきた網田さんは、数年前に機関長となり、第三生洋丸の心臓部の管理を任されるようになった。休漁期である夏にも、暑さと闘いながらエンジンの整備に精を出す。若い船員たちや漁労長の従兄弟と抜群のチームワークを見せる第三生洋丸の水揚げは、機関長の網田さんによる日々の整備に支えられているのだ。

～優しい海の男～

昔は漁から帰れば打ちに行く無類のパチンコ好きであったが、だんだんと回数が減っていき今では家族の待つ家に直帰するようになった。日々の仕事で疲れた体は、家族とご飯を食べたり、旅行をして癒す。第三生洋丸の機関長は、船にも家族にも気を配る優しい海の男だ。

（文責：徳安 理敬）